

消える GDP 22兆円 大廃業時代

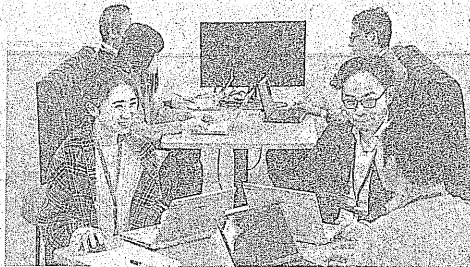
2月27日、都内のホテルの一室に外国人投資家が集まった。証券会社が定期的に関非公開の機関投資家向けカンファレンスに、これまでなかったテーマが盛り込まれた。

IT変化激しく

「中小企業の事業承継について知りたい」。主催したSMB C日興証券が事前

承継に外資が熱視線

海外展開の足がかりに



ウイングアークは外資の出資を機に海外展開を進める (東京都渋谷区)

海外資本が引き受け手になる案件が増えている。

「IT(情報技術)業界は変化が最も激しい。60歳を前にバトンタッチすることを考えた」。ウイングアーク1st(東京・渋谷)

の内野弘幸社長最高経営責任者(CEO、61)は2016年4月に米投資会社のカーライル・グループの出資を受け入れた。

ウイングアークは帳簿や伝票システムで国内シェアのトップを握り、あらゆる

モノがネットにつながる「IoT」の事業にも乗り出した。ただ内野氏は「息子たちには自分の人生を歩んでほしい」と親族承継には二の足を踏んでいた。

迷った内野氏がパートナーとして選んだのがカーライル。同社は承継案件としておやつカンパニー(津市)などにも出資している。

「経営にも厳しく指摘してもらえ、グローバルに展開できる」と内野氏は話す。

カーライルの傘下に入ってから、各事業部が経営に参画するなどそれまでのトップダウン型の経営を見直した。売上高は2年で2

割以上伸びた。

「いい案件はないか」という問い合わせが月に数十件寄せられ、海外の担当部署がかなり多忙だ。

日本M&Aセンターの飯野一宏上席執行役員は海外からの問い合わせの増加に驚く。中でも目立つのが中国や韓国、台湾などアジア資本の企業からの問い合わせだ。

警戒感も根強く

M&A助言のレコフによると、17年に外資企業が日本の未上場企業を買収した案件は16年に比べ23%増の90件。07年(91件)以来の水準に増えた。

M&Aセンターの飯野氏は株高によって非上場の中小企業は上場本の中小に海外市場への道を開く可能性を秘める。

ただ海外資本への警戒感

も根強く残る。「日本のも

のつくりのためを思えば中韓の企業に売却するのは反対だったか……」。実際に

事業の一部を中国資本に売却した関東の製造業の経営者はこう漏らす。経済産業省などからは技術流出を懸念する声も聞こえてくる。

CITICの中野宏信マネージングパートナーは「事業承継問題は日本にとって中小企業を集約して産業を効率化する契機になる」と指摘する。

大廃業時代を国内総生産(GDP)をすり減らすだけで終わらせるのか、市場開拓へのチャンスとするのか。その分水嶺に日本経済は立っている。(おわり)

竹内康雄、辻隆史、逸見純也、佐藤初姫が担当しました。